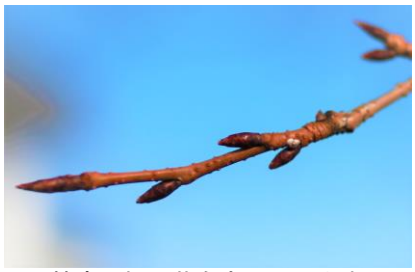
良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより１月号
児童数８２３名
平成 30 年１月９日

戌年を「次のステージ」へのステップアップ胎動の年に

校長　増　野　淳　一


校庭の桜の芽も育っています。

新年おめでとうございます。

今年は戌年です。干支はもともと植物の成長の段階を表しているそうですが、「戌」は草木が枯れるという意味の「滅（めつ）」の意味があります。この字だけを見ると縁起が悪いように思えますが、戌年は季節の変化を受け入れて休眠し、次の年に命の種と力を委ねるという縁起の良い年だそうです。

私は自然が好きで、特に「樹」、中でも「落葉樹」が好きです。自宅の小さな庭には、ブナを植えています。春のブナの芽吹きは、それは見事でほれぼれします。しかし、その前の冬の季節のブナの姿も大好きです。寒さの中で、ブナの新芽は日々大きくなっていきます。その姿を見ていると、数ヶ月先の春の芽吹きが待ち遠しく、寒さもまた素敵に思えるのです。

本校の子ども達は、これまでの「美礼時」の取組を中心として、素直でとても落ち着いています。今の姿は、干支で言えば昨年の「酉」の姿です。酉は果実が熟した状態を表し、今までの努力が報われる収穫の年だと言われています。まさにその通りだと感じます。

しかし、年は変わり時代も動きます。特に子どもは次世代を担う私たちの宝物であり、今の状況に満足するだけでなく、次のステージに向かって不断に進めていかなければなりません。

戌年を迎えた本校は、まさにそのような状況だと言えるのではないでしょうか。これまでの収穫は「良城しぐさ」として継承しながら、良城っ子のさらなる成長を目指して次の目標に向かっていく年、それが戌年だと考えます。

そのためには、まず、本校教育が今後どこを目指し、何を重点的に進めていくのかを示す「学校教育目標」を明確にしていくことが必要です。本校の学校教育目標として示されている「子どもが輝く学校」は、平成１１年度にスローガンとして初めて示され、その後、平成２３年度から学校教育目標となっています。″子どもが輝く″ことは素晴らしいことです。しかし、もう少し、具体的な方向を示し、教職員だけでなく、保護者、地域の皆さんにも、今の良城小学校がどのような教育を進めているのかがわかりやすい目標にしたいと考えています。

平成３２年度からは、国の新学習指導要領に基づく次世代の教育が始まります。かわらばん９月号でお知らせしたように、新要領のキーワードは「社会に開かれた教育課程」です。国としても、子どもを育てる理念を学校と社会が共有し、社会との連携･協働によって実現を図っていくと示しています。また、県も、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを強力に進めています。

本校の新しい学校教育目標の設定をこの１月から進めていきます。学校運営協議会や吉敷地区地域づくり協議会でも説明を行い、保護者や地域の皆さんの声も取り入れていきたいと考えています。ホームページでも進捗状況をお知らせしますので、吉敷地区の全ての皆さんが、新しい本校の教育目標を是非とも「共有」していただき、吉敷地区の宝である子ども達の成長を、学校と一体となって進めていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。